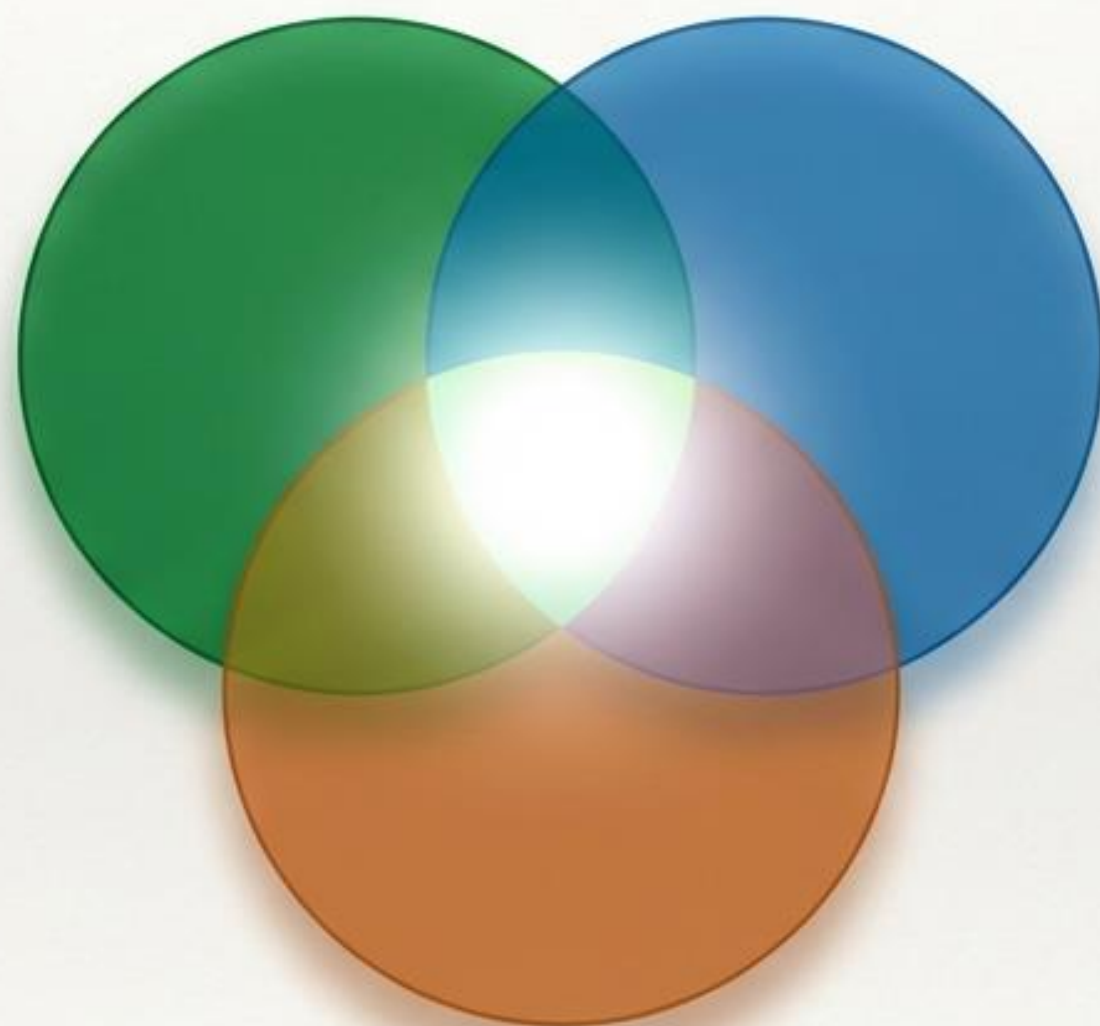
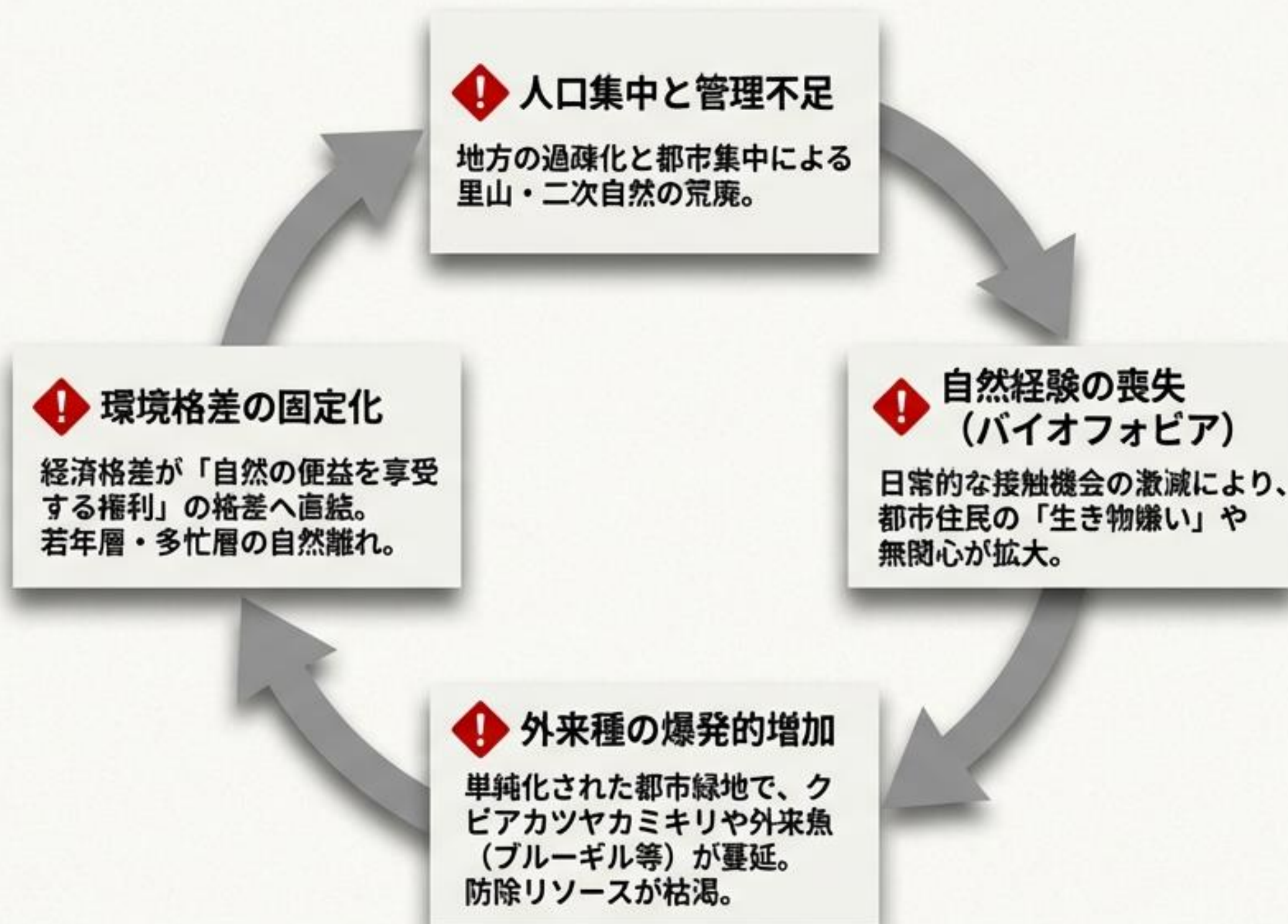


2050年 大阪将来シナリオ：ネイチャーポジティブの実現に向けて

Nature Futures Frameworkに基づく都市緑地・河川・ライフスタイルの統合的再編

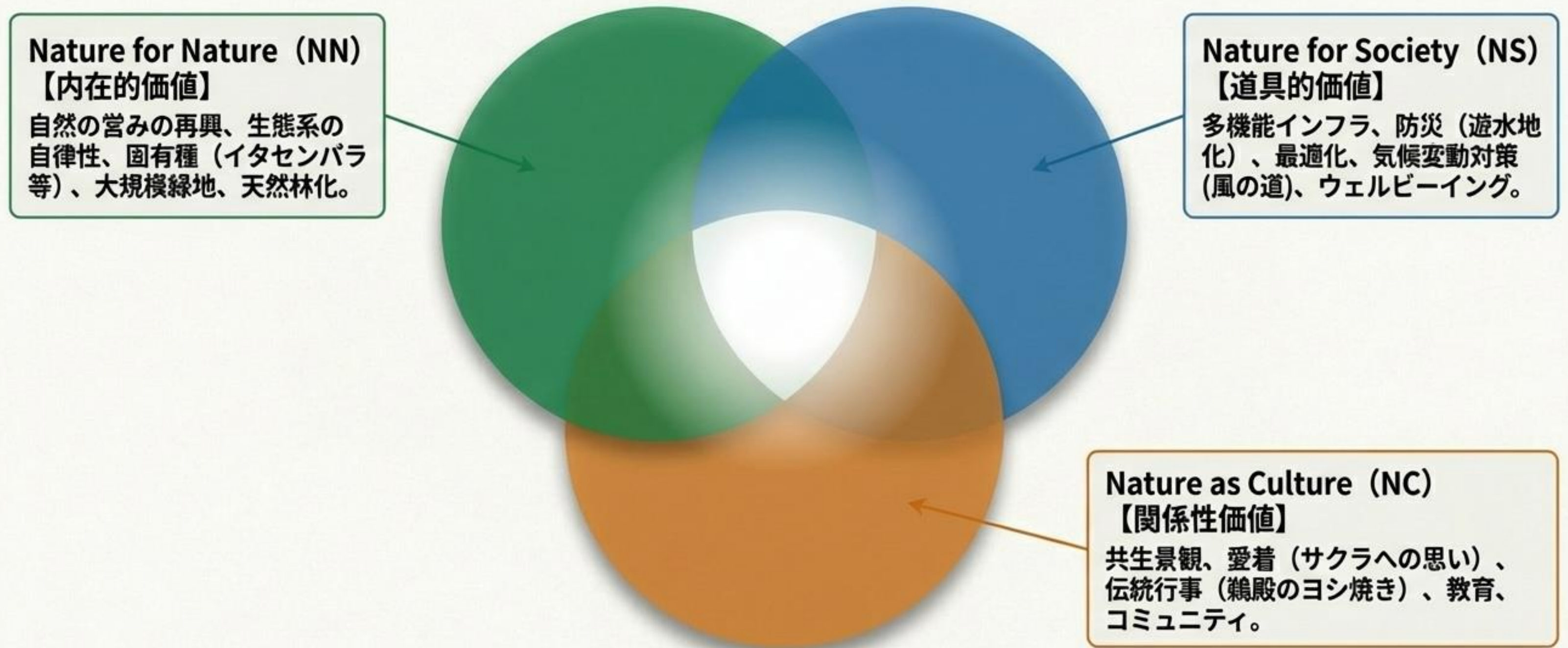


なぜ今、戦略の転換が必要なのか？（BaUシナリオの限界）



従来の「一律の保全・防除」では、都市の自然資源は維持不可能な限界点に達している。

パラダイムシフト：NFF（Nature Futures Framework）の導入



自然の価値を単一の尺度ではなく、「3つの価値」のバランスとポリシーミックスで捉え直す。

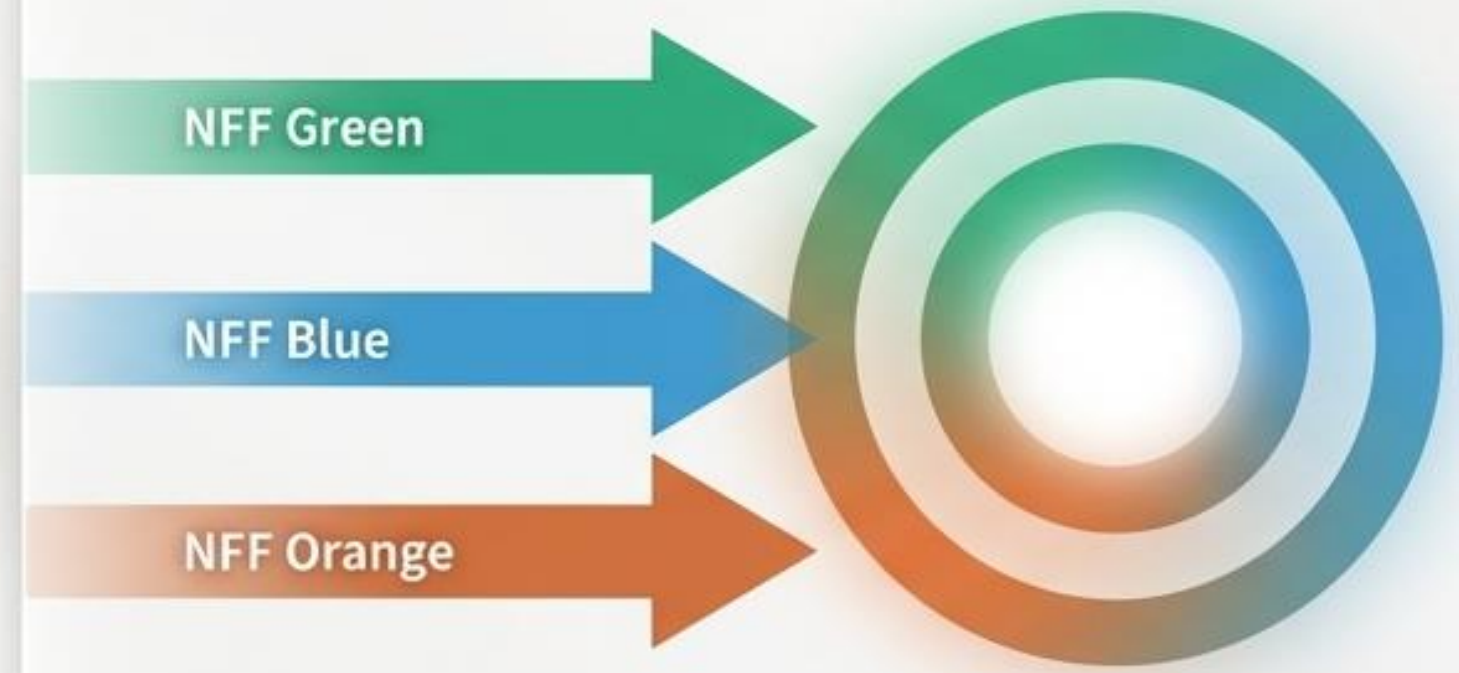
大阪府地域戦略の現状とNFFの統合（ギャップ分析）

現行の戦略（現状）



- NS（社会基盤）とNC（文化・愛着）が混同されている。
- 「行動目標（データ収集やリスト作成）」に終始し、到達すべき「状態目標」が不在。
- 結果：個々の施策がどの価値に貢献しているか評価基準が曖昧。

NFFに基づく新戦略（2026改訂版）



- NN / NS / NCを明確に分離し、それぞれのコンフリクトを調整。
- 行動目標から状態目標（State Targets）へのシフト。
- （例：NN=自律的生態系の回復、NS=グリーンインフラの最適化、NC=共生文化の醸成）

単なる「手段（行動）」の羅列から、3軸に基づく「あるべき姿（状態）」の明確な定義・評価へ。

【領域事例1】 都市緑地と外来種管理（クビアカツヤカミキリ対策）



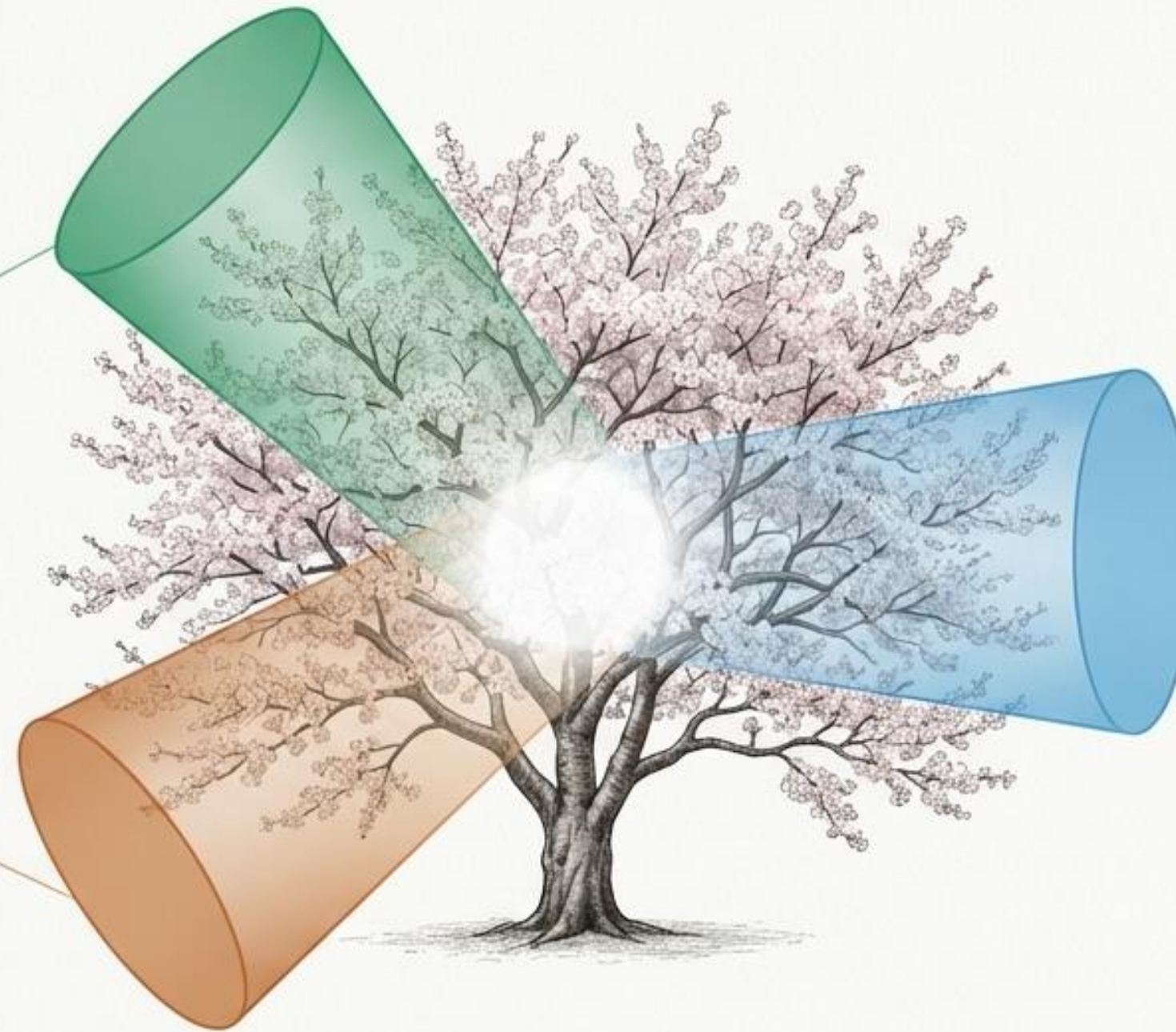
「天然林化」への遷移プロセス

被害木を自然の攪乱と捉え、地域の在来樹種を中心とした自律的な天然生林への転換を図る。



「守り人」による愛着の継承

サクラへの強い感情的愛着を尊重。住民自身をモニタリングの担い手とし、合意形成プロセスを重視



「樹木トリアージ」と最適化

倒木リスク(ディスプレイ)排除のため、被害が拡大する前にプロアクティブに伐採・更新。安全性を最優先。

生態学的に正しい伐採 (NS/NN) が、住民の感情的抵抗 (NC) を生む。
防除は単なる「駆除」ではなく、新たな景観形成へのデザインである。

【領域事例2】 都市河川としての淀川生態系

自律的生態系の復元 (ワンド・氾濫原)

イタセンパラ等の希少種再生産。
推移変動の許容と外来種(ブルーギル等)の徹底防除

多機能インフラ (堤防・都市部)

「流域治水」による水害リスク低減。
川風を活用した暑熱緩和(風の道ビジョン)。

文化的共生 (河川敷・親水域)

「鵜殿のヨシ焼き」などの伝統行事の保存。淀川の恵み(食文化)の継承と教育プログラム。

従来のコンクリート護岸(グレーインフラ)から、生態系を活用した防災(Eco-DRR)など、グリーンインフラへの移行による都市機能の拡張。

【全体統合】 NFF将来シナリオ・コンファレンスマトリックス

| | NN | NS | NC |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 都市緑地 |  <p>攪乱を許容する 天然林化</p> |  <p>樹木トリアージ・ 防災遊水地</p> |  <p>自治会による 銘木の管理</p> |
| 淀川 |  <p>固有種躍動 (ワンド再生)</p> |  <p>流域治水・ 風の道</p> |  <p>ヨシ焼き・ 教育プログラム</p> |
| ライフスタイル |  <p>利用調整と 境界の維持</p> |  <p>徒歩圏の ウェルビーイング</p> |  <p>食を通じた コミュニティ醸成</p> |

3つの価値観は独立しているが、大阪という高密度な一つの都市空間で「同時に最適化」されなければならない。

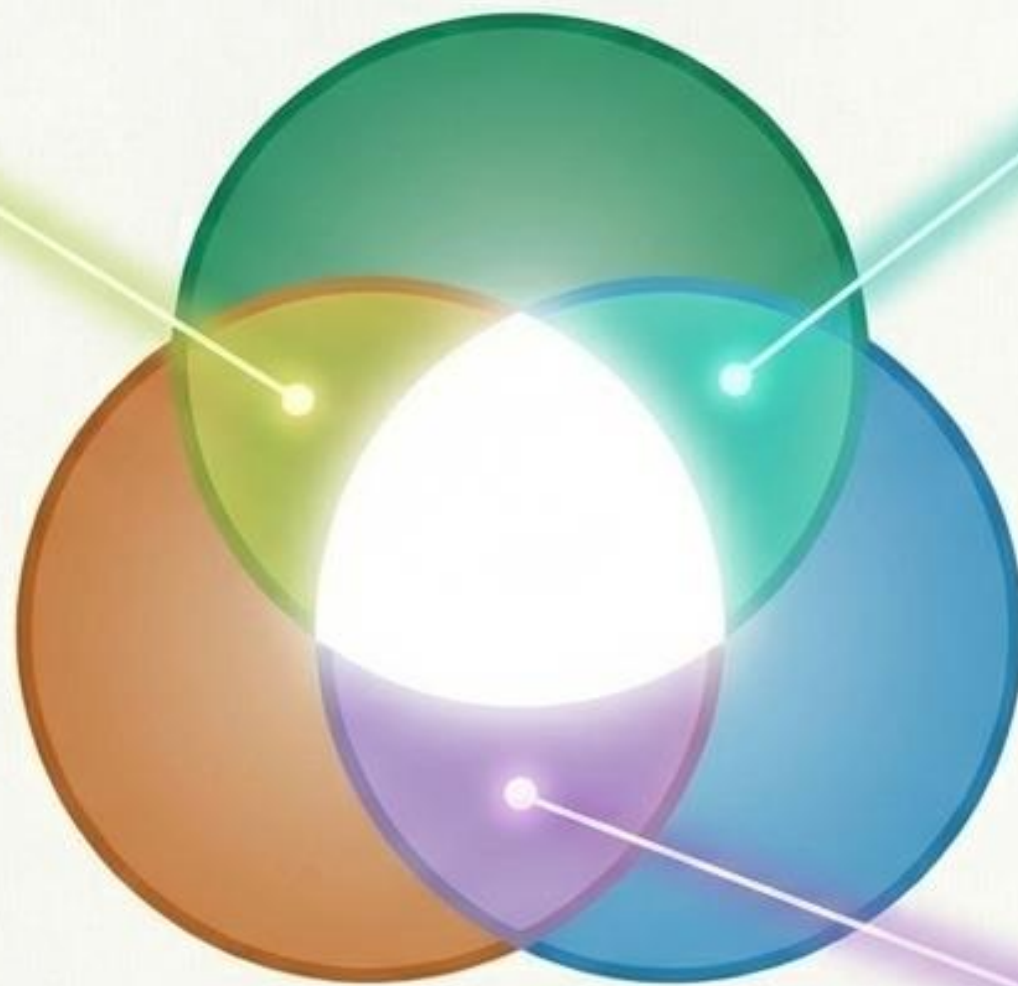
価値の重なりがもたらす「シナジー（相乗効果）」

市民参画型保全 (シビックプライド)

天然記念物（イタセンパラ等）を守る活動が、地域の誇りや教育の場として機能する。

多機能型グリーンインフラ (Eco-DRR)

河川敷や緑地の遊水地化（治水）が、そのまま氾濫原環境の再生（生態系ハビタット）と両立する。



コミュニティ・ウェルビーイング

市民農園や河川でのレクリエーションが、健康増進と同時に災害時の地域結束力を生む。

価値の衝突（コンフリクト）の力学

緑地形態の矛盾

【大規模な塊 (NN)】

【分散・小規模・好アクセス (NS/NC)】

生物多様性には広大な面積が必要だが、市民は徒歩圏の小さな公園を求める。

外来種防除への感情

【徹底した生態系管理・伐採 (NN/NS)】

【個々の命・サクラへの愛着 (NC)】

生態学的に正しい駆除が、市民の強い感情的抵抗感と摩擦を生む。

保全制限とふれあい

【立ち入り制限・非介入 (NN)】

【レクリエーション・利用権 (NS/NC)】

希少種保護のための閉鎖が、日常的な自然との触れ合い（権利）を奪うジレンマ。

NFFの真の価値は、これらコンフリクトの「隠蔽」ではなく「可視化と調整」にある。